



2015~16年度 D-2700 No. 32 2016年5月6日

小倉ロータリークラブ 週報

世界へのプレゼントになろう

R I テーマ：“世界へのプレゼントになろう”

R I 会長：K.R.”ラビ”ラビンドラン氏
(所属：COLOMBO RC)

地区テーマ：“考えようロータリーの多様性と クラブの主体性を”

地区ガバナー：本田 正寛 氏(所属：福岡 RC)

クラブテーマ：“与えよう、ロータリアンとしての ステータスを自覚して”

会長 鮎見 進一／幹事 森 浩明



表紙写真説明(テーマ/鯉のぼり)

毎年、この時期になると楽しみなのが写真の鯉のぼりです。国道322号線の小倉南区徳力と長行との間に架かった桜橋から撮影しました。この日はお天気も良く、複数の施設の方々がお散歩がてら、この素晴らしい景観を眺めていました。

【撮影：長森 2016年5月2日 小倉南区にて】

例会場 リーガロイヤルホテル小倉 TEL 093 (531) 1121

《報告に関して、敬称略》

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

事務局 e-MAIL : kpc@rid27.jp

事務局 北九州市小倉北区浅野2-14-2 リーガロイヤルホテル小倉2F TEL (531) 1727 FAX (522) 4333

会報・雑誌 委員会 委員長：長森 健

副委員長：外堀 隆博

委 員：難波 幸雄・三角 勝信・玉井 行人・田中 信也・佐久間 康和・中島 裕幸



四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか



本日の例会 第3263回

- ・国歌斉唱
- ・ロータリーソング “奉仕の理想”
- ・地区協議会報告

第3262回 例会 記録

4月22日（金）普通例会

- ・ロータリーソング “四つのテスト”
- ・会員卓話 みずほ証券(株) 北九州支店長
小林 慶治 氏

会長の時間

鮎見 進一 会長

本日は良い夫婦の日です。単に語呂合わせですが、他にも夫婦の日は沢山あります。毎月22日は夫婦の日、2月2日も夫婦の日。11月22日がいい夫婦の日、11月23日がいい夫妻の日です。これだけ夫婦の日を作つてどうするのでしょうか？どうせなら、2月22日を割ると1になるということで悪い夫婦の日とでもして、仲直りをする日にしてはどうかと考え、調べたところ、2月22日は、「猫の日」「行政書士記念日」「竹島の日」の

他に、「食器洗い乾燥機の日」というのがあり、なんと食器洗い乾燥機により食後のゆとりができ、夫婦どちらの時間ができるとして、「夫婦(22)に(2)こり」の語呂合せで、日本電機工業会が制定しています。やはり、仲の悪い夫婦の記念日は無理のようです。

幹事報告

森 幹事

- ・本日、各委員長に活動報告書ご提出のお願いを配布しています。会長及び各委員長は、本年度の活動報告書を作成いただきますよう、お願ひ致します。
- ・第2700地区本田ガバナーより、熊本地震に対する義援金の協力依頼がありました。本日、募金箱を回させて頂きますのでご協力を宜しくお願ひ致します。
- ・来週の例会は、祝日の為お休みです。
- ・来週の30日(土)は、地区研修・協議会です。出席される方は宜しくお願ひ致します。当日の受付ですが、委員会別に受付ブースが設営されていますので、ご自分の委員会のところに行かれて下さい。なお、5月6日の例会にて3分間程度の報告をしていただきますので、その準備もお願ひ致します。例会にご欠席される方は、代読用の原稿を事前にご提出下さい。

出席報告

合馬 委員長

2015年7月1日：63名でスタート

	会員数	出席者数	メークアップ	出席率
当日の出席	65名	38名	—	69.09%
先週の出席	65名	30名	31名	92.86% 修正後

◆ゲスト 0名
◆ビジター 0名

委員会報告

次年度幹事報告

松永 副幹事

本日例会終了後、この会場で次年度の役員及び委員長・副委員長会議を行います。ご担当の方はお残り下さい。

ニコニコ献金

坪根 副SAA

6,000円 : 累計金額 520,754円

天ヶ瀬 洋正 君

4月17日(日)東京で開催された日本臨床内科医会総会において、「地域医療功労者表彰」を受けました。会長の慶應義塾大学名誉教授 猿田享男(さるた たかお)先生より、表彰状および記念の盾を授与されました。

松藤 啓介 君

仕事のため早退いたします。申し訳ありません。

会員卓話

みずほ証券(株) 北九州支店長 小林 康治 氏

「証券業界用語あれこれ」



本日は、相場の話ではなく、「証券業界用語あれこれ」と題しましてお話しさせていただきます。

その前に、皆さんにお渡ししているチャート見ながら、少し私の入社時からの株価の動きを振り返ってみたいと思います。

1989年の年末に38,915円という高値を付け、そして、私が入社した1990年4月は30,000円くらいでした。飛び込み営業を始める時に、上司に「日経平均はいくらになると思う？ 来年には50,000円になる！」と言われて営業に飛び出しました。あの頃に「50,000円になります…」という話しを聞いてくれたお客様には、本当に申し訳ないです。50,000円どころか、38,915円の高値すら取りませんでした。

そして、入社してからの3年間、下がり続けます。半値八掛け二割引き、そういう言葉が躍った時代でもありました。そして、円高不況、住専問題、金融恐慌と

暗黒の90年代が始まりました。詐欺師呼ばわりされ、名刺はゴミ箱に捨てられ、本当に大変な時代でしたが、逆に自分を強くしてくれた時代でもあったと思います。

そして、1999年からITバブルです。1年以上の上昇相場で、1996年の高値22,666円を抜くのか？と期待しました。しかし、ITバブルも崩壊します。1年半かけて上昇した相場は、3年かけてダラダラと下がります。そして、2003年には7,607円を付けてしまいます。1989年の高値38,915円のたったの2割です。8割の価格がなくなりました。良く見ると、この1990年からITバブルまで、すべて「へ」の字相場です。上昇は短く、下がるのは長く、毎日が下がっている、そのような相場、時代でした。しかし、2003年にりそな銀行に公的資金が入り、相場の様相がガラッと変わります。もたつくときもありましたが、2007年まで上がり続けます。この時に、「この13年間の苦しみがやっと報われた」「証券会社に入って良かった」と初めて思いました。しかし、リーマンショックでこの上昇相場も終焉します。その後は、ギリシャショックや震災がありましたが、相場は揉み合い、安倍政権になって再び上昇相場となりました。

さて、本題の「証券用語業界あれこれ」についてお話ししたいと思います。証券会社の営業場では聞いたことのない、意味不明な言葉がたくさん飛び交っています。その一部を少しお話しします。

その前に、なぜ「株式」と言うのでしょうか。新入社員に質問され、少し調べてみたのですが、語源には「切り株説」と「ストック説」、この2つがあります。「切り株説」が主流ですが、「ずっと残っている」という切り株のイメージが転じ、世襲などによって継続的に保持される地位や身分を「株」と言うようになったそうです。「ストック説」は、株を英語でストックと言いますが、実は切り株と言う意味もあります。切り株から枝が生え育ち、枝分かれする・・株式のように成長し分配する・・そのような意味からだとも言われています。

営業マンが営業場で良く口にする「ザラバ」の意味をお話しします。日本人は短縮するのが好きなようで、そのままの言葉からきています。実は「ザラにある普通の相場」のことを「ザラバ」と言います。証券会社と取引があれば、担当者に「ザラバで買おうか」なんて言うと、ちょっと玄人っぽくなり、担当者もベテランの方と思うかもしれません。

【次回例会予告】

5月15日(日)奉仕例会

- 春の清掃登山例会(門司港～世界平和パゴダ)

5月20日(金)普通例会

- ロータリーソング “それでこそロータリー”

- ・卓話

福岡国土建設専門学校 教授 小野 仁 氏